ダイズ作における帰化アサガオ類対策

1　アサガオ類の被害実態

(1)アサガオ被害の拡大

ダイズ畑で帰化アサガオ類が大発生しています。

・西三河地域のダイズ作において、アサガオ類の発生が確認されはじめたのは1990年代後半です。
・その後発生地域は拡大しており、現在では山間部を除く県内のほぼ全域に発生が見られています。

(2)帰化アサガオ類の種類

・愛知県では、以下の**4種類**が確認されています。
・マメアサガオは北アメリカ産、その他は熱帯アメリカ産の**一年生雑草**です。

アメリカアサガオ

ホシアサガオ

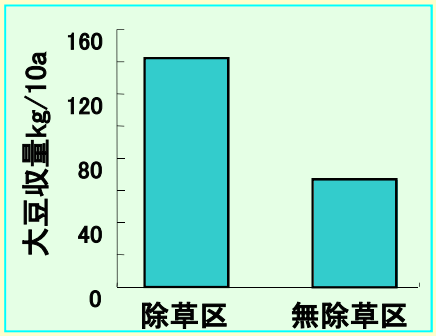
マメアサガオ

マルバルコウ

(3)被害の内容

・大豆収穫用コンバインへの絡みつきにより作業が妨げられます。
・莢付が減り、収量が減少します。
・アサガオ類に大豆が押しつぶされて倒伏します。収穫ができなくなります。
・汚粒が発生します。
・水稲作でも発生し、玄米にアサガオ種子が混入 します。

大豆成熟期での帰化アサガオ類の状況



アサガオの除草をしなかった場合の大豆収量の減少

２　アサガオ類の侵入、被害拡大を防ぐために

（1）早期に発見・防除をしましょう

・アサガオ類は多くの場合畦畔からほ場へ侵入します。
・畦畔で見かけたらバスタ液剤で実を付ける前に防除しましょう。
・ほ場内においても発生が少ないうちに手で抜き取りましょう。

道路の法面から大豆畑に侵入するアサガオ類

こんなに多くの種子が落ちる前に対策を

（2）被害の拡大防止をしましょう

・アサガオ類種子は、コンバイン作業及びロータリ作業により新しいほ場へ拡散します。
・これらの作業は被害のないほ場から行いましょう。
・それができない場合は、作業機の清掃を丹念に行いましょう。
・屑ダイズはアサガオ種子が混入していることが多いので、ほ場への還元は厳禁です。

収穫された大豆に混入したアサガオ種子

（3）ダイズ生育の健全化を図りましょう

・播種の条件が悪く、出芽不良となってしまったほ場には、アサガオ類を始め多くの雑草が繁茂します。
・ダイズの生育が良ければ、葉によりほ場が覆われ、アサガオ類が繁茂しにくくなります。播種前の砕土を十分に行い、出芽率を高めましょう。
・湿害を回避するための排水対策が重要なことは言うまでもありません。

3　アサガオ類の防除・生育抑制技術
～　アサガオ類がほ場に侵入したら　～

①フルミオWDG（土壌処理剤）

使用時期：ダイズ播種後出芽前
使用量：　10g／10a

・完全に抑制することはできないので、
他の防除手法と　組み合わせる必要があります。
・イネ科雑草には効果が低いので、
イネ科に効果のある薬剤を併用します。

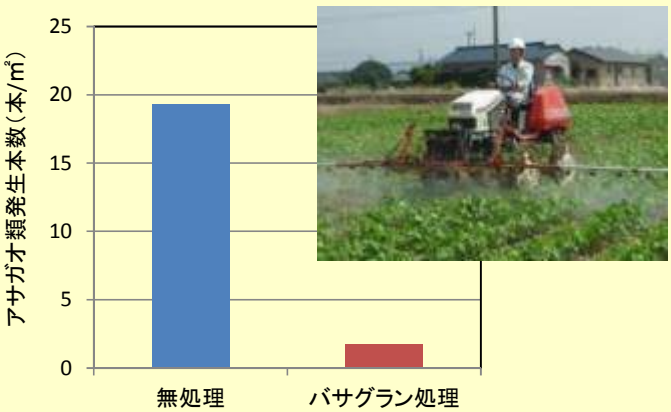
フルミオWDG

慣行土壌処理剤

②大豆バサグラン　全面散布

使用時期：ダイズ2葉期～
使用量：　150ml／10a

・晴天が続きそうな日の、午前中の散布で
高い効果を示します。
・2週間程度の抑草は可能ですが、他の
除草法との組み合わせが必要です。



処理8日後のアサガオ類発生本数

③中耕培土

実施時期：ダイズ4～6葉期

・処理後、2週間程度は抑草が可能です。
・アサガオ類発生量が多いほ場や、遮光が
十分でない場合、再びアサガオ類が繁茂します。

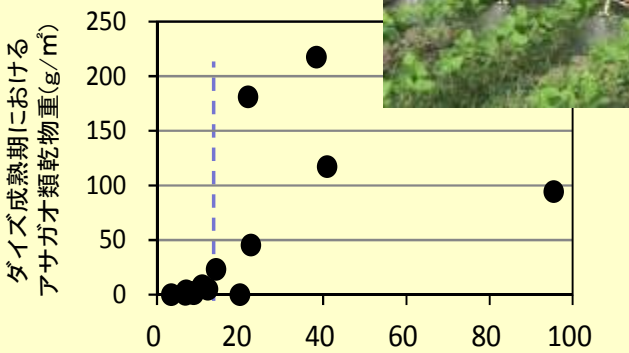
中耕培土11日後

中耕培土33日後

④バスタ液剤　畦間株間散布

使用時期：ダイズ6～8葉期
使用量：　500ml／10a

・ダイズ2葉期時点のアサガオ類出芽本数が
15本/㎡未満で、高い除草効果を得られます。
・3条タイプの畦間株間散布バーで、作業能率は
1時間あたり約30aです。



畦間株間除草によるアサガオ類除草効果

4　アサガオ類の除草体系

（1）アサガオ類が少ない場合（ダイズ2葉期時点で15本／㎡未満）

「①フルミオWDG」によりアサガオ類の出芽を抑制した上で、
「大豆バサグラン全面散布と中耕」または「バスタ液剤畦間株間散布」で除草します。

・ダイズ2葉期のアサガオ類発生本数が
約7本／㎡未満の場合

⇨「大豆バサグラン全面散布」＋「中耕培土」

約15本／㎡未満の場合

⇨「バスタ液剤畦間株間散布」

☆　15本／㎡以上の発生本数の場合、下記（2）の除草体系で防除します。

（2）アサガオ類が多い場合　（ダイズ2葉期時点で15本／㎡以上）

ダイズ生育期の除草法として、大豆ﾊﾞｻｸﾞﾗﾝとﾊﾞｽﾀ液剤の散布が必須です。

①大豆バサグラン全面散布
（ 150ml ［100L］ / 10a ）
ダイズ２葉期以降

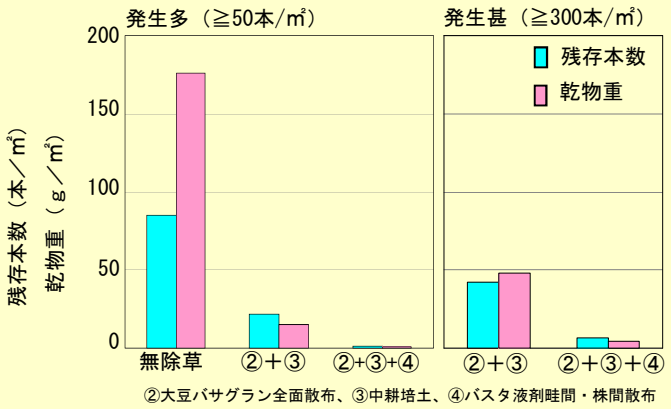
帰化アサガオ類の幼植物にベンタゾンン剤を散布し、帰化アサガオ類の効果的な生育抑制を図る。

②中耕培土
ダイズ４～６葉期

①にて残存した帰化アサガオ類を、機械的に除去、または土中に埋没させる。

③バスタ液剤
畦間・株間処理
（ 500ml ［100L］ / 10a ）
ダイズ６～８葉期

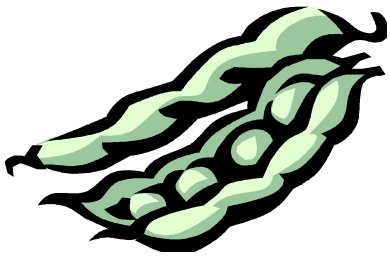
①②により発生・生長を抑制した帰化アサガオ類に対して畦間・株間除草を適期に行うことで、効果を最大限に発揮できる。



除草体系によるアサガオ類除草効果

・アサガオ類発生本数300本/㎡以上の甚発生ほ場でも除草が可能です。
・２週間に2～3回の除草法を実施することになるため、作業計画を綿密に立てることが重要です。

「農薬の使用に当たっては、ラベルの記載に従って使用してください。」
登録情報は平成26年3月28日現在のものです。



愛知県

農業総合試験場　企画普及部　広域指導室
作物研究部　作物研究室
〒480-1193　愛知県長久手市町岩作字三ヶ峯1の1
電話 0561-62-0085　内線333
FAX 0561-63-0815